



【表紙写真】AKAHIDAの皆さん

株式会社 AKAHIDA のご紹介

日本リハビリテーション医学会学術集会

Dr. topics(呼吸器外科 鬼塚貴光 医師)

特定看護コラム

DMAT 派遣活動報告

外来コラム

鹿屋訪問看護ステーション

ナーシングホームひだまり

健康だより【よい目覚めはよい眠りから】

辞令交付式／鹿屋体育大学サッカー部通信

9月 外来診療表

第4回 市民向け講演会

糖尿病教室

■日時／11月14日(土)
14:00～(1時間程度)

■場所／池田病院多目的ホール

■講師／管理栄養士、理学療法士

事前に参加申し込みをお願いいたします。

【お問合せ】平日 8:30～17:30 担当:栄養科 竹下

☎(0994)

43-3434(代)

株式会社AKAHIDAのご紹介

株式会社AKAHIDAでは、池田病院グループの洗濯・クリーニング事業や売店事業、保育園事業、ベーカリー事業をはじめ、不動産事業、保険事業、経営・建設コンサルタント事業など、職員総数28名体制のもと幅広い事業を展開しています。それぞれの事業を通じて、池田病院グループを利用される皆様や職員を支えるとともに、地域の皆様の暮らしに身近なサービスを提供しています。

今回は、その中から主な事業をご紹介します。

1. 洗濯・クリーニング事業

池田病院や介護老人保健施設「ひだまり」の患者様・利用者様の衣類などを、大型洗濯機や乾燥機を使用して、一日平均500枚以上仕上げています。また、手術等で使用される特殊なリネン・衣類についても、専任のクリーニング師が細心の注意を払い、衛生面と品質に配慮しながら丁寧に仕上げています。医療・介護の現場を陰から支える大切な役割を担っています。

2. 売店事業

病院を利用される皆様や職員に、より便利で楽しくご利用いただける売店を目指して運営しています。日用品はもちろん、新商品や話題の商品なども積極的に取り揃え、きめ細やかな商品管理と魅力ある売り場づくりに努めています。皆様の日々のちょっとした楽しみや活力につながる売店を目指してまいります。

3. にじいろ保育園

「すべては子どもの笑顔のために」を理念に、青仁会職員のお子様だけでなく、地域のお子様も受け入れています。小規模保育ならではの一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな保育と、異年齢保育の良さを生かしながら、子どもたちが安心してのびのびと過ごせる環境づくりを大切にしています。保護者の皆様にとっても安心できる、“第2の家族”のような温かい保育園を目指しています。

4. JULIAN BAKERY FACTORY

毎朝5時から仕込みを始め、一つひとつ丁寧に成形・焼き上げた40種類以上のパンを提供しています。パン製造技能士の資格取得をはじめ、スタッフ一人ひとりが製造技術と品質の向上に取り組み、季節限定の商品や新商品の開発にも力を入れています。また、健康志向に特化した新シリーズ「BREAD LABO(健康パン)」など、新たな商品づくりにも積極的にチャレンジしています。地域の皆様に「また食べたい」と思っただけのパンをお届けできるよう、これからもおいしさと新しい魅力を追求してまいります。

株式会社AKAHIDAは、それぞれの事業を通じて、池田病院グループの医療・介護を支えるとともに、地域の皆様の暮らしに寄り添う会社でありたいと考えています。

これからも「皆様に喜んでいただけること」を大切にしながら、より良いサービスと新たな価値の提供に職員一同取り組んでまいります。今後とも株式会社AKAHIDAをよろしくお願いいたします。

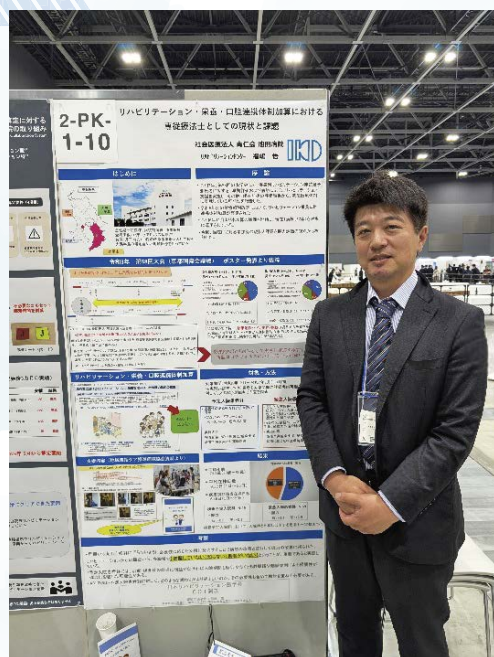
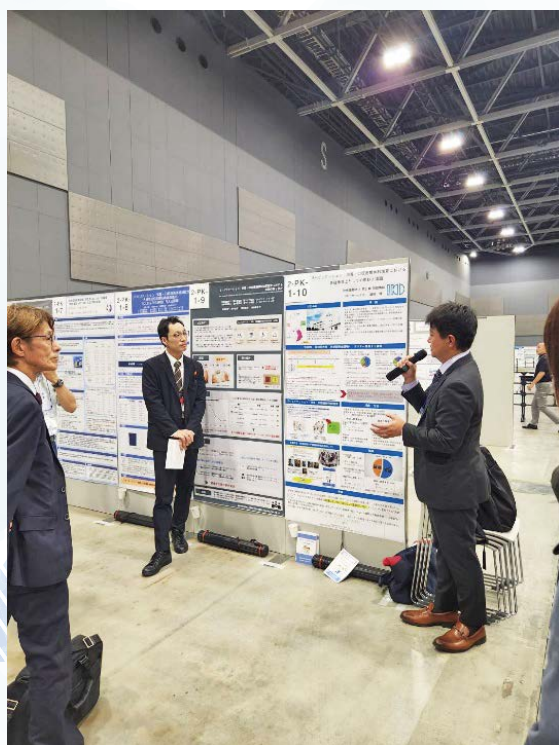
株式会社AKAHIDA
代表 永射強

日本リハビリテーション医学会学術集会

6月4日～7日にかけて福岡で開催されました、日本リハビリテーション医学会学術集会へ演題発表を含めて参加して参りました。今回の演題発表では、令和6年度診療報酬改定において新設された「リハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算」に関する当院の取り組みを報告いたしました。本加算は、まだその算定要件の厳しさからも算定できている施設は全国で約9%という低い状況にあります。しかしながら、これからの医療において非常に重要視されている取り組みであります。当院では、入院から48時間以内にリハビリ療法士・管理栄養士・看護師による状態評価を行い、問題点を共有してより良いサービスに繋がるよう取り組んでおります。また、必要に応じて歯科医師との連携を行い、口腔機能の改善を促します。

皆様、食事はしっかり摂れているでしょうか？ 口腔ケアや噛み合わせに問題はありませんか？ 栄養や口腔機能に問題があれば、どれだけ入院中の運動(リハビリ)を行っても良い効果は生まれません。当院では、本加算の取り組みを多職種で連携し、更により良いサービスの提供が出来るよう邁進してまいります。今回の学術集会で得た知見を糧とし、日々の臨床活動をブラッシュアップして質の向上を図りたいと思います。

リハビリテーションセンター
理学療法士 主任 福嶋 悟



呼吸器外科

おに つか たか みつ

鬼塚 貴光 医師



もしもの時に備えて、自分らしく生きるための話し合い

「ACP(人生会議)」とは？

突然ですが、「もしもの時」について考えたことはありますか？大きな病気やケガ、あるいは年齢を重ねたとき、医療やケアの選択を自分では決められなくなる瞬間がやって来るかもしれません。そんな「もしもの時」に備えて、大切にしたい医療やケアについて、あらかじめ自分自身の希望を考え、信頼

できる家族や医療従事者と話し合っておくプロセスのことを、ACP(アドバンス・ケア・プランニング)と呼びます。日本では、親しみを込めて「人生会議」とも呼ばれています。この記事では、ACPがなぜ大切なのか、そしてどのように進めればよいのかを分かりやすく解説します。

1. なぜACP(人生会議)が必要なの？

人生の最終段階や重い病気になったとき、約7割の人が自分で自分の意思を伝えることが難しくなると言われています。もし医療やケアの方針を決めなければならなくなった時、あなたの希望が分からなければ、ご家族は「これで本当に良かったのだろうか…」と深い悩みや後悔を抱えてしまうことがあります。あらかじめ自分の価値観や「これだけは譲れないこと」を共有しておくことで、次のようなメリットがあります。

- 自分らしい医療やケアを受けられる
最期まで自分の望む生き方や過ごし方を尊重してもらいやすくなります。
- 家族の負担や迷いを軽くできる
残された家族が「本人の希望通りだから」と、苦しい決断を一人で抱え込まずに済みます。
- 大切な人との本音の対話ができる
これからの人生で大切にしたいことを話し合う良いきっかけになります。

2. ACPは「一度きりの書類」ではなく「繰り返し続ける対話」

ACPと聞くと、「エンディングノートに記入すること」をイメージする方も多いかもしれません。しかし、ACPは書類を1枚書いたら終わり、というものではありません。ACPの本質は、

「話し合いのプロセス(過程)」にあります。体調や状況は時間とともに変化するため、人生の節目に合わせて、何度でも繰り返し話し合っていくことが大切です。

3. 今日からできるACPの第一歩

「いざ話そう」と思っても、何から話せばいいのか迷ってしまうものです。まずは、気軽な気持ちで次のようなことから考えてみましょう。

○自分の価値観を振り返る

「これまでの人生で大切にしてきたことは何か?」「これだけは譲れない楽しみは何か?」

○医療やケアについての希望を想像する
「もしもの時はどこで過ごしたいか?」
「どのような治療やケアを望むか?」

○信頼できる人と話してみる

一番話しやすいご家族やパートナー、担当の医師や看護師に、少しずつ気持ちを伝えてみましょう。

4. 鹿児島県での取り組み：地域のサポートを活用しよう

鹿児島県では県民の皆さんが自分らしい医療・ケアについて考え、対話できるよう、さまざまな支援を行っています。一人で抱え込まず、地域の力を活用してみてください。

○普及啓発動画の公開

鹿児島県公式YouTubeチャンネルなどで、ACPを分かりやすく学べる動画が公開されています。一般県民向けに「人生会議とは何か」や「元気な時・病気になった時の進め方」を解説した動画があり、気軽に視聴できます。

○パンフレットや連携用紙の活用

鹿児島県医師会や各自治体が、ACPについての啓発パンフレットを作成しています。「医師や看護師などの医療従事者と、患者・家族が同じ目線で話し合えるように」という工夫がなされています。また、鹿児島大学病院緩和ケアセンターなどが提供する「ACP連携用紙」なども、話し合いのきっかけとして活用可能です。

○「人生会議の日」の活用

毎年11月30日は、語呂合わせで「いい看取り・看取られ」と読めることから「人生会議の日」とされています。これをきっかけに、ご家族で会話を始めてみるのもおすすめです。

ACPは「死」を暗く重く考えるためのものではなく、「これからの人生を、自分らしく大切に生きるため」の前向きな

取り組みです。まずは地域の資料や動画を参考に、「もしもの時はどうしたい?」と、身近な人とフランクに話すところから始めてみませんか。当院では疾患の種類に関係なく、入院時にACPについて一緒に考える機会を設け、そして退院時にこの結果を御本人に文書でお渡しする取り組みを始めています。今後さらに他の近隣病院とも連携していくことで、患者さんご自身の意思を尊重し、地域全体でその人らしい暮らしを支えられるよう努めていく所存です。

※詳細なパンフレットや動画は、鹿児島県の公式ホームページ1)や「鹿児島県医師会 在宅医療推進事業」のサイト2)から確認できます。

1)<https://www.pref.kagoshima.jp/ab13/acp.html>

2)<https://kagoshima-zaitaku.jp/news/news/112-acp.html>





診療現場からのレポート

～医師と連携し、より質の高い医療を目指して～

風に秋の気配を感じる頃となりましたが、地域の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。今回は、特定看護師である私が、日々の診療現場でどのような医療行為や介入を行っているのか、その具体的な取り組みや患者様への想いについてご紹介いたします。

私は現在、急性期病棟で勤務しています。一刻を争うような治療現場において、患者様の状態を正確かつ迅速に把握し、必要な処置をタイムリーに行うことは極めて重要です。そのため私は、医師による直接指示・見守りのもと、正確な血圧測定や血液検査のための動脈ライン確保や直接動脈穿刺をはじめとして、血管確保が困難な患者様や栄養改善が必要な患者様への安全な「PICC(末梢挿入型中心静脈カテーテル)挿入」、さらには「腹水穿刺後のドレーン抜去」など、これまで医師が担っていた高度な技術を要する処置を実施しています。これにより、処置を行うまでの時間経過を短縮し、また、場合によっては何度も針を刺し直す、といった患者様の身体的負担や苦痛を大幅に軽減することにつながっています。

また、患者様の治療や回復の土台となる「呼吸」と「栄養」の管理にも力を入れています。人工呼吸器を装着されている患者様に対しては、日々の変化を見逃さず細やかな設定調整を行い、早期離脱に向けたサポートを行っています。さらに、当院で再開した「栄養サポートチーム(NST)活動」を通じて医師や薬剤師、管理栄養士などの多職種と連携しながら、一人ひとりの全身状態に合わせた適切な栄養管理プランを立案(提案)・実践しています。

病気や怪我の治療に向き合う患者様やご家族の不安を少しでも和らげ、安心・安全で質の高い医療を提供できるよう、医師と強固なサポート体制を組んで支援してまいります。これからも患者様の声に耳を傾け、回復への道のりをしっかりと支えてまいりますので、気になることや不安な点がございましたら、いつでもお気軽にお声がけください。

特定看護師コラム

学びを深め、 より良い在宅看護を 届けるために

訪問看護では、利用者お一人おひとりの病状や生活環境が異なります。だからこそ、私たちは知識や技術を学び続け、より良い看護につなげることが大切であると考えています。

今村総合病院 特定行為研修センターで フォローアップ研修に参加しました



8月1日（土）、今村総合病院 特定行為研修センターで「2026 年度 第9回フォローアップ研修」に参加しました。

他の施設で活躍する特定看護師の方々が一堂に会し、実践報告や事例検討を行い、それぞれの経験や工夫を共有する貴重な機会となりました。

事例検討：「栄養および水分管理における アセスメントと多職種連携」

「持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整」について考察を行いました。

- グループディスカッションを通して、多様な視点を共有
- 事例検討では、管理栄養士による栄養学的視点からの助言
- 多職種連携に基づいた、アセスメントと判断力について学びを深めました



研修で改めて感じたこと

- 栄養状態や水分バランスは、状態の変化を早期にとらえることが大切
- 小さな変化の背景を、多角的にアセスメントする視点が必要
- 多職種で情報を共有し合うことで利用者さんにとって最善の支援につながる



学びを、日々の訪問看護に活かして参ります

研修で得た知識や他施設での実践からの学びを活かし、利用者様の状態に合わせたケアを提供して参ります。

- 状態の変化を見逃さない観察力を高める
- 根拠をもって判断し、医療につなげる
- 安心して在宅療養を続けられるよう支援する



利用者様・ご家族の安心のために

研修で学んだことは、次の訪問からすぐに実践につなげることを心がけています。

これからも、お一人おひとりの思いに寄り添いながら、利用者様や心家族が安心してご自宅での療養生活を続けられるよう、学びを続けてスキルアップに努めて参ります。



学びが、在宅での安心につながります



学ぶ



最新の知識や技術を学ぶ

考える・工夫する



根拠に基づいて考え、工夫する

実践する



利用者さんに合わせて実践する

在宅での安心へ



安心して在宅療養を続けられる

学びは明日の利用者さんの笑顔につながります。一人ひとりに寄り添い、その人らしい生活を守るために、これからも努力を続けて参ります。

鹿屋訪問看護ステーション

訪問看護師・特定看護師 福満 寿子（ふくみつ すみこ）



～熊本地震 DMAT派遣活動報告～

令和8年熊本地震災害 7月28日16時27分発災

全国のDMATが自動待機、当院災害対策本部設置、日勤中に1回目ミーティングと素早い対応でした。17:19には鹿屋市医師会、鹿児島県医師会災害メンバー、小井土DMAT事務局長が入るLINEを設置し、情報が伝わるように備えました。ロジの活躍と病院事務とで素早い情報収集がなされ、DMATの出動準備が整い、翌日朝からDMAT5名がドクターカーと病院救急車の車両2台で出動しました。私の母校である熊本大学のある地域でのDMAT活動であり、地域の住民や医療者への貢献に参加出来たことを支えて頂いた皆様へ感謝致します。



医局 医師 地域救急センター長 臨床研修センター長 久木田一郎



このたびの熊本地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。また、被災地において、復旧・復興に尽力されているすべての皆様に深く敬意を表します。

このたび、池田病院DMATの一員として、3日間にわたり被災地へ派遣されました。活動期間中は看護師として患者様への対応や支援を行うとともに、現場での出来事や指示を時系列で記録する「クロノロジスト（記録係）」を担当し、さらに、搬送時の安全な移動を支援するナビゲーションの役割を担いました。

今回の活動拠点となった熊本労災病院では、各医療機関との間での広域搬送や転院搬送の支援を行いました。特に印象深かったのは、派遣2日目に実施したJCHO熊本総合病院での搬送業務です。同院では、ライフラインの影響により透析継続が困難となった患者様の搬送が必要となりました。しかし、エレベーターが停止していたため、11階病棟から救急外来まで、隊員や現地スタッフが協力し、エアストレッチャーを用いた階段による搬送を行いました。その際、患者様の荷物の搬送を担うとともに、搬送前後の状態確認や必要な医療機器の確認を行いました。また、現場では状況が刻々と変化する中、活動内容や指示を正確に記録し、チーム内で情報共有が円滑に行えるよう努めました。クロノロジストとしての活動を通じて、記録によって「現在のチームの状況を可視化すること」が、安全で迅速な活動につながることを実感しました。

また、搬送活動では救急車に同乗し、通行止めなどの道路状況を含む交通情報を確認しながら、安全かつ迅速に目的地へ到着できるよう経路選択を調整するナビゲーションの役割も担当しました。災害時は通常とは異なる交通状況となるため、患者様を安全に搬送するためにも、より正確な情報収集と判断が重要であることを学びました。

3日目には八代保健所を拠点として、特別養護老人ホームや有料老人ホームなどの高齢者福祉施設における調査・支援活動に従事しました。各施設を訪問し、生活用水の確保状況（貯水槽の状況や1日の使用量、給水ルートなど）や物資確保の状況などについて情報収集し、その内容を広域災害救急医療情報システム（D24H）へ入力して報告しました。この経験を通じて、病院内での医療支援だけでなく、災害時に支援を必要とする高齢者施設への迅速な情報収集と支援が、入所者の生命や生活を守ることにつながることを深く学びました。そして、混乱を極める災害現場において正確な情報を収集して記録として残すこと、そしてチーム全体が同じ情報を共有しながら活動することの重要性を実感しました。今回の活動で得た貴重な経験と反省点を、今後の院内におけ

る防災体制の充実や、実際の災害対応や災害看護の実践に活かしてまいりたいと思います。

最後になりますが、急な派遣にもかかわらず温かく送り出していただき、現地での活動を支えてくださった院内の皆様に心より感謝申し上げます。

外来 看護師 原崎千亜美

「自分たちに何ができるのか」

災害派遣が決まってから、現地へ向かうまでの間、何度も考えた言葉です。被災地の状況が十分に分からない中で、不安や緊張もありましたが、これまでのDMAT活動の訓練等で培ってきた経験を少しでも現地で生かしたい、被災された方々の力になりたいという思いを胸に、熊本へ向かいました。

令和8年7月29日から8月1日まで、池田病院DMATの一員として熊本県南活動拠点(熊本労災病院)へ派遣されました。

現地では、患者搬送や診療支援、福祉施設支援など災害状況やフェーズに応じたさまざまな活動に従事しました。時間の経過とともに活動内容は変化し、急性期患者への対応から福祉施設支援や給水支援など、被災者の生活を支える支援へと移行していく様子を目の当たりにしました。特に印象に残ったのは、救急車で患者搬送です。道路の破損や陥没、ガソリンスタンド周辺の渋滞など、平時とは異なる道路状況の中での活動となりました。現場では状況が刻々と変化するため、安全を最優先に情報を収集し、その場その場で判断しながら活動することの重要性を改めて実感しました。また、八代保健所と連携して福祉施設の調査・支援も行いました。病院だけでなく、地域の医療・介護体制やライフラインを維持することも災害医療には欠かせない役割であり、多くの関係機関が一つの目標に向かって連携している姿が非常に印象的でした。

今回の派遣を通して、災害医療は医療技術だけではなく、情報共有や多職種・行政との連携、そして状況に応じて柔軟に対応する力が重要であることを改めて学びました。

今後、南海トラフ地震をはじめとした大規模災害の発生も懸念されています。当院においても、多数の傷病者の受け入れや地域医療を支える役割が求められる場面が想定されます。今回の派遣で得た経験を院内で共有し、災害対応訓練や受け入れ体制の充実につなげることで、地域の皆さまにより良い医療を提供できるよう努めていきたいと思っています。

最後になりますが、派遣期間中に後方支援や応援をしてくださった職員の皆さまに、心より感謝申し上げます。皆さまの支えがあったからこそ、現地で活動に専念し、無事に任務を終えることができました。ありがとうございました。



外傷センター 救急救命士 平間優汰



発災直後、『隣県だ!』と、すぐに心の中でスイッチを入れました。10年前、リハビリテーション支援団体(JRAT)として熊本で活動した記憶が鮮明によみがえり、今回も全国規模での支援体制となることを確信し、DMAT派遣への準備を開始しました。これまで何度も訓練を重ねてきましたが、災害発生直後の急性期活動は初めてであり、不安しかありませんでした。令和6年の能登半島地震では、現地ロジスティクス要員として一人での派遣活動であり、不安の波に押し潰されそうだった気持ち

持ちを無理やりにでも奮い立たせながら金沢まで移動したことを覚えています。しかし、すぐに不安は払拭できました。DMAT隊は、発災から数時間後にはメンバー全員が同じ気持ちで準備を開始していたのです。チーム全員が被災地のためだけを考えて行動していました。現地活動は過

酷な状況もありましたが、被災地の病院スタッフの表情には悲壮感が漂いながらも、救急医療を必死で守り被災した方の命を懸命に繋ごうと踏ん張っています。何も迷うことはありません、自分が出来る事をやるだけです。エレベーターは使用できず、病院11階から非常階段で患者を担送し、転院搬送を行いました。空調も止まっており汗が止まりません。しかし、被災者でありながら自宅へも帰れず、使命感をもってこのミッションを続けている現地医療スタッフを目前にすれば過酷さも忘れられました。

復興支援は長期化が予想され、既にニーズは福祉施設や避難所などへ移行しつつあります。今後もJMATやJRATへと、引き続き要請時は応えられるように準備しておきます。

『やれることは全部やる、でしょ！DMATは』*映画《フロントライン》より。

派遣活動を全面的にバックアップして頂いた池田病院すべての皆様へ、心より感謝致します。

リハビリテーションセンター 理学療法士 主任 福嶋悟

その日は、昼から半日のお休みを頂き自宅でゆっくりしていました。子供を迎えに行き、そのあと何をして遊ぼうか？なんて考えていた7月28日16時27分。明らかに何か違うような地震の揺れと、一瞬頭をよぎった「どこかで大きな地震かも？」と違和感を覚えました。その違和感思ったより長く頭の中に残り、不安感を増幅させました。地震速報では「熊本で震度7」の文字。その25分後には池田病院に向かっていた。当院でも災害対策本部が設置され、都道府県から要請があれば当院のDMAT(災害派遣医療チーム)を派遣するという方針が決定されました。その後自宅に戻り、現地に入る可能性が高いことを家族へ説明し、いつ出発するか分からない中、3日間程度の活動に必要な衣類や必要物品をパッキングしました。そして20時38分には、熊本県よりDMAT派遣要請があった旨の連絡があり、21時48分に熊本労災病院が参集拠点であることが決定されました。それを受けて、当院でも出勤に向けて更なる準備、調整が始まりました。現地での活動を想定して必要な資機材や医療物品などを集め、日付が変わった0時35分にはほとんどの準備が整いいったん帰宅しましたが、7月29日7時00分に病院へ再度集合し、8時05分には出発となりました。

今でもよく覚えています。平成23年3月11日。まだ学生だった私は、東日本大震災のニュースを見ながら、ただただ無力感に押しつぶされそうになっていました。それから5年後の平成28年4月16日、深夜1時25分にはベッドでスマホを見ていましたが、突然激しく揺れ、熊本地震の本震でした。隣県なのに何もできない、何をしたらいいのかわからない状態でした。その頃の私は仕事をしておらず、ただただ時間が過ぎるだけの日々であり、災害で感じた2度目の無力感でした。

池田病院に就職し、令和6年の能登半島地震では、発災から1ヶ月時点でJMAT(日本医師会災害医療チーム)の一員として活動し、そして今回の熊本地震でDMATとして活動させて頂きました。九州全域から集まる各病院のDMATの使命感は強く、膨大な情報量进行处理する本部チームや普段の臨床経験を活かした診療支援を行う実働チームであり、全てが熊本のために熱い思いをひしひしと感じた4日間となりました。池田病院に帰ってきた時、大勢のスタッフからの「お疲れ様、お帰りなさい」の言葉は、張り詰めた緊張の糸を緩ませてくれました。快く送り出してくれた周囲の仲間たち、上司の支援、不在の間に病院機能を維持してくださり心から感謝いたします。

災害はいつか、自分の近くでもあるかもしれません。当院の災害に対する準備はできているのか？地域を支えられる体制はあるのか？全国から集まるDMATなどの災害派遣チームを受け入れできる体制は整っているのか？いや、万全では無いと思う。もっと平時にできることはきっとあります。ひとつずつ課題をクリアできるように。「地域への貢献」と言うのは易いですが、良い響きの言葉であるばかりでなく、「実際にできるかどうか」が重要だと感じたこの4日間でした。

外来 看護師長 河野竜太





外来コラム

毎日、暑い日が続いていますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか？早く過ごしやすい季節になってほしいですね。

今月は、外来化学療法室についてお話させていただきます。皆さんは、薬物の点滴治療である「外来化学療法」という言葉をご存知でしょうか？

外来化学療法は、外来で通院しながら抗がん剤治療やリウマチの治療が行えます。以前は抗がん剤治療は入院して行うことが多かったですが、今は住み慣れた自宅や施設で生活しながら継続的な治療ができるようになりました。

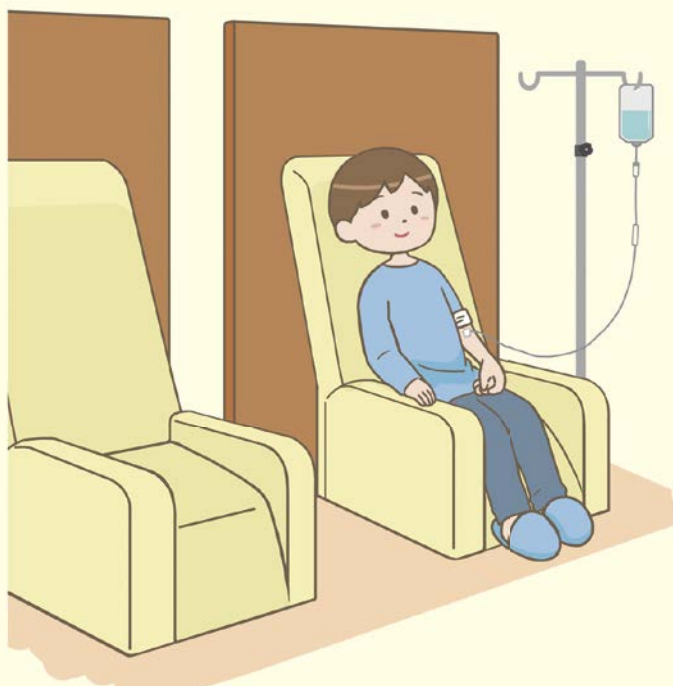
当院外来にも化学療法室があり、1日約8～10名程度、多い日で20名程の患者様が化学療法室を利用されています。

診療科は血液内科や乳腺外科をはじめとして、消化器内科、消化器外科、呼吸器内科、肝臓内科および整形外科と、幅広い診療科において様々な薬剤を用いて治療が行われています。治療中は副作用発現の有無などを確認しつ



つ、医師との連携を図り、安全・安楽に治療が継続できるよう努めています。

私たちスタッフは、一人ひとりの患者様がその方らしい人生を歩めますように、少しでもお手伝いできたらとの思いを込めて日々のケアに努めています。



外来 看護師 垣内ひとみ、日高弘美

持病のある方のための災害時避難ガイド

～「備え」と「共有」で安心を守る～

台風や大雨、地震などの災害は、いつ起こるかわかりません。特に持病があり、毎日のお薬や医療機器が必要な方は、避難生活の中でも治療を続けられるよう、普段から準備しておくことが大切です。「どんな病気があるか」「どんな治療をしているか」を、家族や支援者と共有しておきましょう。

1 治療に必要なものの準備も忘れずに日頃から準備しておきましょう

- **お薬手帳** いつも持ち歩き、内容を最新にしておきましょう。
- **常備薬** 数日分～1週間分を目安に多めに用意し、処方内容も控えておきましょう。
- **水・非常食** 非常食品や飲み水を用意しておきましょう。
- **医療機器** 予備の電池や充電器、使い方のメモも準備しておくとう安心です。
- **腹膜透析** 透析液・回路・接続用キャリー・消毒用品など、十分な量を確保し、保管場所や方法を家族と共有しておきましょう。
- **ストマ(人工肛門・人工膀胱)** パウチ・皮膚保護剤・洗浄剤・処理袋など、普段使っているものを多めに準備しておきましょう。
- **インスリン** インスリン・注射針・アルコール綿・血糖測定器などを、余裕を持って準備しておきましょう。
※これらをひとまとめにして、すぐに持ち出せる場所に置いておきましょう。



2 避難するときは

- **薬を持参** 常備薬・お薬手帳を忘れずに持っていきましょう。
- **持病を伝える** 避難先では、持病があることや必要な医療処置について、早めにスタッフへ伝えましょう。
- **無理しない** 体調が悪いときは無理をせず、休息をとしましょう。
- **水分補給** こまめに水分をとり、脱水を防ぎましょう。

3 困ったときは相談を

- **福祉避難所** 一般の避難所での生活が難しい場合は、福祉避難所などの支援が受けられることがあります。
- **医療スタッフ** 薬が足りない、医療機器について困っている、体調がいつもと違うなどのときは、我慢せずに相談しましょう。
- **相談する** 地域の相談窓口や、避難所のスタッフに早めに声をかけましょう。



4 ご家族・周囲の方へ

- **見守り** いつもと違う様子がないか、食事や睡眠、表情などを気にかけてみましょう。
- **薬の管理** 薬がきちんと飲めているか、飲み忘れや飲み間違いがないか一緒に確認しましょう。
- **無理をさせない** 体調がすぐれないときは、無理をさせず、ゆっくり休むことを優先しましょう。

もしもの時に困らないように、できることを今から準備を！

お薬・病気・避難所・避難経路・必要な支援について、家族や訪問看護師と一緒に確認しておきましょう。



鹿屋訪問看護ステーション

鹿屋市下祓川町1794番地 TEL 0994-44-4776

川口明加 看護師 / 岡崎茜 看護師 / 福満寿子 看護師 / 福永めぐみ 看護師



介護老人保健施設 ナーシングホームひだまり



納涼祭 ♪



7月25日(土)、各階にて納涼祭を開催しました。
今年のテーマは「納涼祭、あの頃の夏へタイムスリップ」です。
納涼祭に向けて利用者様と一緒に準備を進め、手作りの櫓が完成しました。
また、カンパチロウダンス(いけだカンパチロウダンス)も毎日練習を重ね、皆さま本番をととても楽しみにしておられました。



3階フロアでは、ボウリング、輪投げ、クジ引きのほか、チョコバナナ、カンパチロウダンス、盆踊りを行いました。

ボウリングや輪投げでは、なかなか狙ったところに当たらず、悔しがる姿も見られましたが、何度も挑戦し、当たった時には大喜びされていました。

チョコバナナも大好評で「おかわり!」や「美味しい!」という声が多く聞かれました。

カンパチロウダンス、盆踊りも大盛り上がりとなり、皆さまとても楽しそうな様子でした。終始笑顔があふれ、素晴らしい夏のひとときとなりました。



ひだまり 介護職員 田中香菜恵

●介護老人保健施設とは、介護が必要な方の家庭復帰・在宅支援をめざし、生活サービスを行います。

利用対象者：介護保険の被保険者が対象となります。要支援1・2/要介護1～5の方(入所サービスは要支援を除きます。)

手続き方法は、当施設か、担当ケアマネージャーにご連絡ください。見学をご希望の方はいつでも2階の受付またはお電話にてお申し付けください

ひだまり通所リハビリ

※月曜～土曜日のどの曜日も受け入れ可能です。短時間利用のコースもあります。新規にご利用を希望される方は問い合わせ先までご連絡ください。 ◆お問合せ先：通所リハビリ 繁昌(支援相談員)

ひだまり訪問リハビリ

※住み慣れた在宅での生活が安心・安全にその人らしく継続できるように支援して参ります。こんなことが楽にできるようになりたい、こんな生活がしたいなどの希望があれば下記連絡先までご連絡ください。 ◆お問合せ先：訪問リハビリ 星野(理学療法士)



介護老人保健施設
ナーシングホームひだまり
ショートステイ/通所リハビリ/訪問リハビリ
代表(0994)41-1200/通所(0994)41-1725

ひだまりホームページアドレス

★<https://rouken.ikedahp.com>

ホームページからのお見舞いメールもぜひご利用ください

よい目覚めはよい眠りから

～ 9月3日は秋の睡眠の日(ぐっ(9)すり(3)の語呂合わせ) ～



■ 適切な睡眠の目安と世代別のポイント

適切な睡眠がとれているかは、朝目覚めたときの「休養感(しっかり休まった感覚)」が重要です。必要な睡眠時間は加齢とともに変化します。自分に合った睡眠時間を見直しましょう。

働く世代

- 睡眠時間は6～9時間が目安です。
- 習慣的に7時間前後眠る人が最も死亡や疾患のリスクが低く、6時間未満の短い睡眠はリスクを高めます。

リタイヤ世代

- 長寝(寢床で過ごしすぎる)に注意。
- 長く眠ることよりも「よく眠れた」という感覚が重要です。日中は活動的に過ごしましょう。

休日の「寝だめ」は逆効果！社会的時差ボケ(ソーシャルジェットラグ)に注意

平日に溜まった「睡眠負債」を解消しようと休日に寝だめをすると、体内時計が乱れる原因になります。注意力の低下、記憶力・免疫力の低下、生活習慣病や気分障害のリスク増加を招くため、平日と休日の起床時刻のズレは最小限にしましょう。

■ 睡眠による休養感を高める3つの工夫

① 日中の運動・身体活動を増やす

- 日中に体を動かし適度な疲労感を得ることで、寝付きが良くなり中途覚醒が減ります。
- 重要なのは「運動の習慣化」です。習慣的に運動している人の70%以上は睡眠の質が良いと回答しています。



② 就寝前にリラックスし、嗜好品に注意する

- 寝る前の食事・夕方以降のカフェイン・スマホの使用・喫煙・過度な飲酒は、睡眠の質を著しく低下させ、休養感を損なう原因になるため控えましょう。



③ 寝室の環境を整える(光・音・温度)

光

朝はカーテンを開けて朝日を浴び体内時計をリセット。夜は照明を弱くして暗い環境を作りましょう。

音

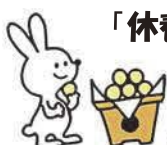
騒音は眠りを妨げます。できるだけ静かな環境を整えるか、リラックス用に心地よい静かな音楽をかけましょう。

温度

エアコンや季節に応じた寝具で快適な室温に。入浴で一度体温を上げると、その後の体温低下で眠りやすくなります。

こんにちは、保健師です。

今回は睡眠についてご紹介でした。よい睡眠をとり「休養感」を実感し、残暑を乗り切りましょう！！



ケアサポートセンター：徳田、小牧



新たな風とさらなる飛躍へ! 新入職者・昇格者のご紹介

8月4日、新入職者および昇格者の辞令交付式を執り行いました。
青仁会に新たな活力を吹き込んでくれる、素晴らしいメンバーをご紹介します。



—新入職者—

看護師 1名
薬剤助手 1名
計 2名

—昇格者—

副主任級
計 5名

総務課人事係 橋野友希



鹿屋体育大学 サッカー部 通信

Vol.47

九州サッカーリーグ 予定 (9月分)

鹿屋体育大学サッカー部の2軍にあたるNIFS KANOYA FC (NIFS 1st) が参加する、九州サッカーリーグの結果と予定です。順位は、14節終了時で10位中6位。残り4節で、リーグ残留圏内の8位はもちろん、より上位を目指して頑張ります!

九州サッカーリーグ

15節 9/5 (土) 16:00 西階球技場
NIFS KANOYA 1st vs. FC 延岡AGATA
16節 9/13 (日) 10:00 佐世保市総合 陸上競技場
NIFS KANOYA 1st vs. CA CELESTE
17節 9/19 (土) 14:30 新富フットボールセンターA
NIFS KANOYA 1st vs. 日本製鉄大分
最終節 9/20 (日) 10:00 藤見公園 西側多目的広場
NIFS KANOYA 1st vs. Brew SAGA

サッカー部 SNS のご紹介



Instagram



X (旧 Twitter)



YouTubeチャンネル

Topチーム 結果&予定 (8月-10月分)

トレーニングマッチ

8/9 (日) 11:00 喜入ユニータ
鹿屋体育大学 ○1-0 鹿児島ユナイテッド (J3)
8/12 (水) 10:00 宮崎県屋外型トレセン
鹿屋体育大学 ●0-4 テゲバジャーロ宮崎 (J2)

総理大臣杯 全日本大学サッカートーナメント

1回戦 9/2 (水) 11:00 遠野市国体サッカーB
鹿屋体育大学 (九州3) vs. 流通経済大学 (関東3)
2回戦 9/4 (金) 11:00 遠野運動公園多目的
準々決勝 9/6 (日) 11:00 いわぎんスタジアムA
準決勝 9/9 (水) 11:00 みやぎ生協めぐみ野A
決勝 9/12 (土) 13:00 キューアンドエー スタジアムみやぎ

九州大学サッカーリーグ ホームゲーム (観戦無料)

10節 9/19 (土) 11:00- 鹿屋体育大サッカー場
鹿屋体育大学 vs. 日本経済大学
11節 9/26 (土) 11:00- 鹿屋体育大サッカー場
鹿屋体育大学 vs. 熊本学園大学
13節 10/10 (土) 11:00- 鹿屋体育大サッカー場
鹿屋体育大学 vs. 西南学院大学
16節 10/25 (日) 11:00- 鹿屋体育大サッカー場
鹿屋体育大学 vs. 九州産業大学

※ リーグ上位3位までがインカレ出場権獲得

池田病院は鹿屋体育大学サッカー部を応援しています!

診療科目	月	火	水	木	金	土
総合内科	担当医	担当医	嘉川 颯太	担当医	森 理紗	担当医
腎臓内科			池田 徹	池田 徹	古城 卓真	
透析内科	古中 城村 卓英 仁	潤中 村 英 仁	古中 城村 卓英 仁	古中 城村 卓英 仁	古中 城村 卓英 仁	潤中 村 英 仁 秀
腎炎専門外来		古城 卓真				吉嶺陽造(第3)
血液内科	中嶋 秀人 詞	中嶋 秀人 詞	吉 満 誠	竹下 有 節	上野 卓也	中嶋 秀人 詞
脳神経内科	足立 拓馬		岩田 真一			池田賢一(第1・3)
消化器内科	青木 孝弘	福迫 哲史		青木 孝弘	福迫 哲史	福迫哲史(隔週) 青木孝弘(隔週)
消化器専門外来			熊谷 公太郎	小牧 祐雅	佐々木 文郷	担当医
肝臓専門外来	今 中 大	今 中 大	平 峯 靖也		今 中 大	担当医
消化器内科 内視鏡	福迫 哲史		青木 孝弘	小牧 祐雅 福迫 哲史	佐々木 文郷 青木 孝弘	担当医
呼吸器内科	寒川 卓哉	上野 史朗	寒川 卓哉		上野 史朗 松木 田 彬	
呼吸器外科	鬼塚 貴光	武田亜矢(第1・5)		鬼塚 貴光		
糖尿病内科			川本 雄大	上久保定一郎(第3)	植村 和代	
循環器内科	東 福 勝 徳	池田 大 輔 徳	東 福 勝 徳 悠 介	池田 大 輔 香	池田 大 輔	池田 大 輔
脳神経外科 脳・血管内科		羽生 未佳	富士川 浩祥			羽生未佳(第3)
リハビリテーション科						川津 学(第2)
整形外科	廣津 匡 隆之 井手 貴	川井田 秀文	瀬戸口啓夫(隔週) 高野 純(隔週)		担当医	担当医
外科・消化器外科	豊崎 良一			福森 和彦	豊崎 良一	
放射線科(画像診断)	宮川 勝也	宮川 勝也		宮川 勝也	宮川 勝也	宮川 勝也
心臓血管外科		上野 隆幸			上野 隆幸	
乳腺外科	船迫 和		船迫 和	船迫和(手術日)	船迫 和	船迫 和
救急科	久木田 一朗	富士川 浩祥	久木田 一朗	富士川 浩祥	石 神 崇	富士川 浩祥 石 神 崇
歯科	奥家 涼子 淵田 亜沙子	奥家 涼子	奥家 涼子 淵田 亜沙子		奥家 涼子 淵田 亜沙子	奥家 涼子
健診内視鏡	堀之内 史郎	堀之内 史郎	堀之内 史郎	堀之内 史郎		
血液内科		中嶋 秀人 詞	吉 満 誠	竹下 有 節		
消化器専門外来			熊谷 公太郎	小牧 祐雅	佐々木 文郷	担当医
消化器内科 内視鏡	青木 孝弘 福迫 哲史	福迫 哲史	熊谷 公太郎 青木 孝弘	小牧 祐雅 福迫 哲史	佐々木 文郷 福迫 哲史	
循環器内科	東 福 勝 徳		東 福 勝 徳			
循環器内科 (不整脈外来)		田上 和 幸 山下 恵里香		田上 和 幸 山下 恵里香	デバイス外来 田上 和 幸 山下 恵里香	
脳神経外科 脳・血管内科	富士川 浩祥			石 神 崇		
呼吸器外科		青木雅也(第2)				
リハビリテーション科						川津 学(第2)
整形外科			担当医		担当医	
脳神経内科	足立 拓馬		岩田 真一			
放射線科(画像診断)	宮川 勝也	宮川 勝也		宮川 勝也	宮川 勝也	
乳腺外科	船迫 和		船迫 和	船迫和(手術日)	船迫和(第1・3)	船迫 和
外科・消化器外科			白濱 浩司			
救急科	久木田 一朗	富士川 浩祥	久木田 一朗	富士川 浩祥	石 神 崇	富士川 浩祥 石 神 崇
歯科	奥家 涼子 淵田 亜沙子	奥家 涼子	奥家 涼子 淵田 亜沙子		奥家 涼子 淵田 亜沙子	奥家 涼子

【受付時間】 午前…8:30～11:00 午後…休診(午後診療は予約以外は休診となります) ※急患の場合この限りではありません。

※総合内科以外は必ずご予約の上、ご来院ください。

※かかりつけ医のある方は、必ず紹介状をご持参ください。(紹介状をご持参の場合もご予約が必要となります。)

予約・変更・お問い合わせ

外来診療予約・変更

TEL:0994-45-5278
FAX:0994-45-5259

放射線科

TEL:0994-45-5163
FAX:0994-45-5271

健康診断・人間ドック

TEL:0994-40-8782
乳がん検診も承ります。

歯科

TEL:0994-43-6468